



1:1 ユダの王、アモンの子ヨシヤの時代に、クシの子ゼパニヤにあった【主】のことば。クシはゲダルヤの子、ゲダルヤはアマルヤの子、アマルヤはヒゼキヤの子である。

1:2 「わたしは必ず、すべてのものを大地の面から取り除く。——【主】のことば——

1:3 わたしは人と獣を取り除き、空の鳥と海の魚を取り除く。悪者どもをつまずかせ、人を大地の面から断ち切る。——【主】のことば——

1:4 わたしは手をユダの上に、エルサレムのすべての住民の上に伸ばす。その場所からバアルの残りを、偶像の祭司たちの名を、その祭司らとともに断つ。

1:5 そして、屋上で天の万象を拝む者どもを、また、【主】に誓いを立てて礼拝しながら、ミルコムに誓いを立てる者どもを、

1:6 【主】に従うことをやめた者ども、【主】を尋ねず求めない者どもを断ち切る。」

1:7 口をつぐめ。【神】である主の前で。【主】の日は近い。【主】はいけにえを備え、招いた者たちを聖別されたからだ。

1:8 「【主】であるわたしが獣を屠る日に、わたしは首長たち、王子たち、すべて外国の服をまとった者たちを罰する。

1:9 その日、わたしは罰する。すべて神殿の敷居を跳び越える者、主人の家を暴虐と欺きで満たす者どもを。

1:10 その日には——【主】のことば——魚の門から叫び声が、第二区から嘆きの声が、もろもろの丘から大いなる破滅の響きが起る。

1:11 泣き叫べ、マクテシユ区に住む者どもよ。

商人はみな滅び失せ、すべて銀を量る者は断ち切られるからだ。

1:12 そのときわたしは、ともしびをかざしてエルサレム中を捜す。そして、ぶどう酒のかすの上によどみつつ、心の中で『【主】は良いことも、悪いこともしない』と言っている者どもを罰する。

1:13 彼らの財産は略奪され、家は荒れ果てる。家を建てても、そこに住めず、ぶどう畑を作っても、ぶどう酒を飲めない。」

この書の著者であるゼパニヤはヒゼキヤ王の血統で、発言力もあったと思われます。平和に慣れてしまい、神様への忠実さや恐れがなくなってしまったユダ王国の民に、神のさばきがあることを明言します。

これは現代も多くのクリスチャンに言えることで、平穏な生活に慣れてしまい、神様に従ったりしなくても生活できている…とたかをくくってしまう傾向もあるのです。そのような態度に対して神様は見過ごすことはありません。

またクリスチャンだけではなく、全ての人類に対しても、神様は主権者でありますので、創造主をないがしろにする人々の態度を見過ごしにはなさらないのです。(2:4~)

本書ではいきなり「取り除く」「断ち滅ぼす」といったさばきが語られます。もちろんこれまでも、神様はねんごろに愛を持ってご自身に立ち返るようにと、説いていたのです。それでも神の声を無視する者にとっては、さばきは突然のようにもたらされるということです。

ここでは具体的には、「バアル」信仰のような偶像礼拝者や、「天の万象を拝む」自然礼拝者に対する警告があります。また「主を求めない者」といった、不敬虔者に対して警告されています。

さばきは大きな規模でなされることがわかります。人々の心にあるのは「主は良いことも、悪い

こともしない。」というような、神に対するあなどりです。私たちは主は必ずみわざをなされるのだ…という確信を持ち続けましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？

